

藤工業DX戦略

藤工業 株式会社
2024年4月1日

01

代表メッセージ

02

D Xビジョン

03

D X戦略

04

D X推進体制

05

人材・IT環境整備

06

指標

01 代表メッセージ

近年、少子高齢化の進展による次世代の担い手確保、度重なる大規模な自然災害の発生など建設業界を取り巻く環境が厳しさを増しています。

一方で、デジタル技術は21世紀に入り高度な発展を遂げました。ロボット化やAIなどの具体的な技術実装は従来人間のみができると言われた領域を侵食しつつあり、ドラスティックな社会変化を牽引しています。建設業界においても、デジタル化による「見える化」、IoT、AI、自動化、高度な画像解析などの技術が、効率化・省人化・低コスト化に貢献し、生産性向上に欠かせないものとなっています。

DXと言われる業務プロセス及びサービス提供プロセスの大幅な変革も話題となっており、人材不足が叫ばれる中で施工品質を維持しつつ円滑に業務を回すためには、これらデジタル技術の活用は避けては通れないと認識しています。

このような環境変化を踏まえ、デジタル技術とデータの積極的な活用でSDGsを推進し、地域の持続可能性を追求するとともに、従来の業務を変革し、社員の働き方改革の実現に向けた「藤工業DX戦略」を策定しました。

社員一丸となって戦略を推進するとともに、進捗状況等はホームページ等で随時発信していきます。

2024年4月1日
藤工業 株式会社
代表取締役 江藤 康臣



デジタル技術とデータの積極的な活用でSDGsを推進し、地域の持続可能性を追求するとともに、従来の業務を変革し、社員の働き方改革を実現します。

V I S I O N

A T T O M

戦略① 建設現場のDX

- デジタル化を推進し、ICT建機と3次元データの効果的な活用を通じて、建設現場の品質と効率性の革新を目指します。

戦略② 働き方のDX

- デジタル化の取り組みを通じて、企業の運営効率と経済性を向上させ、持続可能なビジネスモデルの実現を目指します。

建設現場のDX

- ・ICT建機の充実
- ・3次元データの活用
- ・ICT施工による品質の安定/高度化
- ・事業継続性の強化



働き方のDX

- ・情報共有
- ・生産性の向上
- ・ペーパーレスの取り組み
- ・リモート活用



建設現場のDX

1. ICT建機の充実

建設機械にICTを導入し、測量・施工精度の向上を図り、技術的な優位性を高めます。

当社ではこれまで杭ナビショベルなどのICT建機やUAV（ドローン）を活用するなど、積極的な取り組みを行っています。

今後も、タブレットを活用した3次元測量やUAVの内製化など、ICT建機の種類・数を増やし、現場毎に配置することで、**より作業の効率化や安全性の向上を図り、技術承継を実現**します。

2. 3次元データの活用

3次元データの活用により、測量から施工までデジタル技術を駆使し、測量工程の作業時間・人員の削減、施工工程の効率化を実現します。**データを共有・活用することで、測量から施工までの一連のプロセスを効率化することが可能**となり、**各段階での問題発見や改善、各工程のスムーズな連携が可能**となります。

また、3次元での視覚的な理解も可能になるため、より良い品質の施工が可能となり、現場作業の効率化や品質向上を図ります。

建設現場のDX

3. ICT施工による品質の安定/高度化

ICT施工により、作業の正確性と効率を向上させます。具体的には、3次元データを活用して、正確な位置や深さ、角度などを自動的に計測・制御することで、人為的なミスを減らし、作業の精度を向上させます。また、作業データを共有することで、現場と事務所の連携を深め、全体の作業効率を高めます。

さらに、ICT施工は品質管理にも寄与します。施工データを記録・蓄積することで、後から詳細な検証や分析が可能となり、品質の一貫性と改善に取組みます。

4. 事業継続性の強化

クラウド技術を活用してデータやシステムを保存・管理することで、災害やシステム障害が発生した場合でも事業を継続できる体制を構築します。クラウド上にデータを保存することで、地域的な災害や事務所の設備トラブルなどからデータを保護します。

これにより、いつでもどこからでも必要な情報にアクセスでき、業務継続に必要な最低限の機能を保つことが可能となり、できるだけ早く業務を再開することができ、発注様への影響を極小化し、業務の効率化とコスト削減にも寄与し、事業の持続性と安定性を高めるための重要な取り組みとなります。

働き方のDX

1. 情報共有

業務に関する知識や情報を全員で共有し、それを活用して効率的に仕事を進めていきます。具体的には、現場の状況、問題点や改善策、新たなアイデアなどを積極的に共有し、それぞれの視点や知識を集約します。これにより、**誤解やミスを防ぎ、より質の高い仕事を行うことを可能**とします。また、クラウドストレージなどのITツールを活用することで、リアルタイムでの情報共有や、場所を問わずにアクセス可能な環境を作り出すことで、作業の効率化や業務のスムーズな進行を実施します。

2. 生産性の向上

案件の予算や進行状況をデジタルツールで一元的に管理し、情報をリアルタイムで共有することで、より効率的な業務遂行を目指します。具体的には、**予算進捗や工期管理、材料の発注状況などを一覧化し、必要な情報を即座に把握**できるようになります。これにより、予算超過や工期遅延などのリスクを早期に察知し、適切な対策を講じることが可能となります。また、各部署や現場間での情報共有もスムーズになり、**全体の作業効率と生産性向上が期待でき週休2日制を実現**します。

働き方のDX

3. ペーパーレス

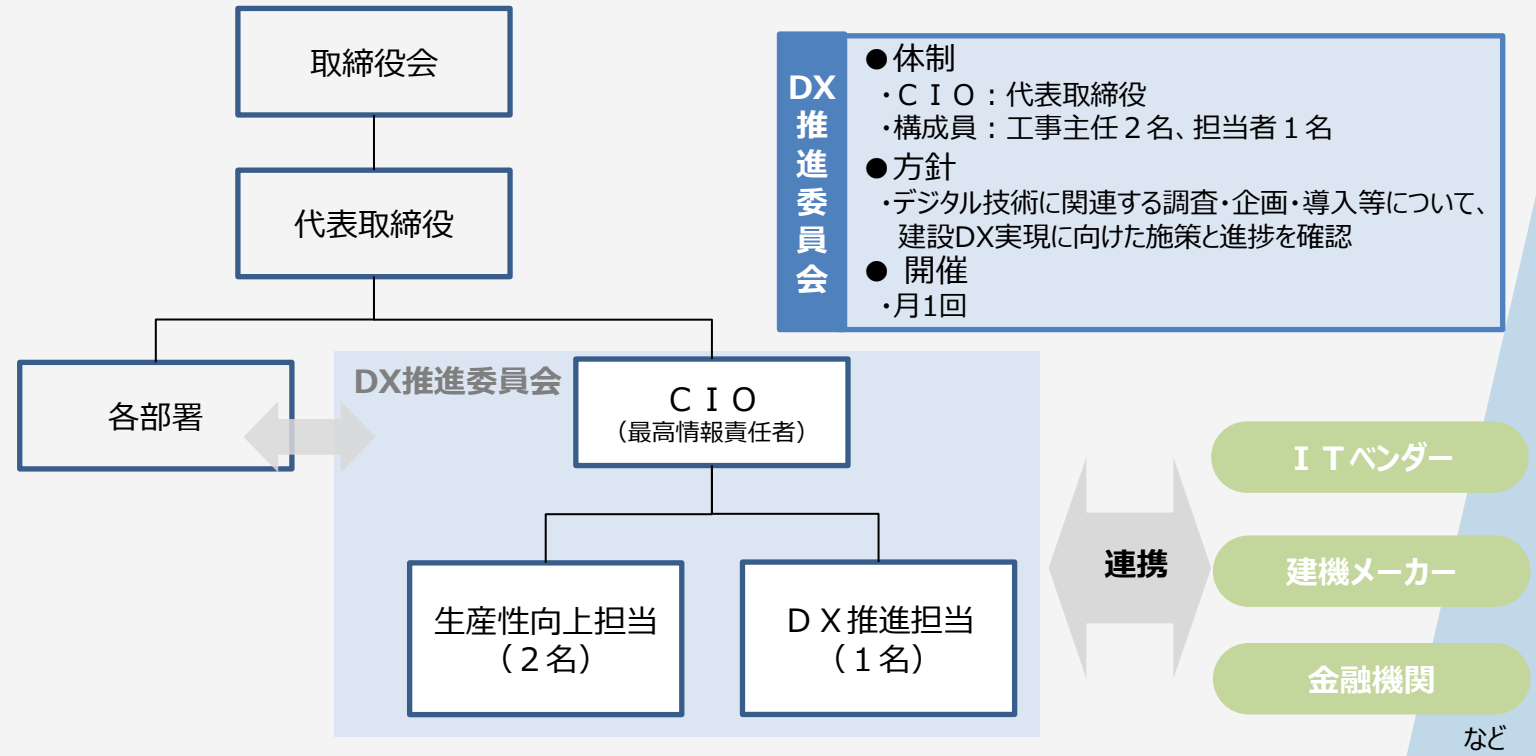
紙による情報共有や作業記録から、デジタルデータによるものへと移行し、**情報の検索性や共有性を向上**させます。また、データの保存や管理も一元化し、効率的な業務遂行を可能にします。さらに、ペーパーレス化は環境負荷の軽減にもつながります。**紙の消費を減らすことで、森林資源の保護やCO2排出量の削減に貢献**し、業務効率化と環境保護への貢献し、コスト削減や納期短縮、標準化に繋がります。

4. リモート

現場やオフィスにいなくても、インターネットを通じて業務を遂行することを目指します。具体的には、ビデオ会議システムやクラウドサービスを活用することで、場所を問わずに情報の共有やコミュニケーションを可能とします。これにより、**移動時間の削減や、柔軟な働き方を実現**します。また、現場の状況をリアルタイムで共有することで、迅速な意思決定や問題解決が可能となり、遠隔地の現場にもリモートで参加可能となることで、より広範な経験や知識の共有を図ります。

DXビジョンを実現する体制・運営

代表取締役がC I O（最高情報責任者）を兼務し、「生産性向上」「DX推進」の各担当を指名し、各部署の関係者が協力してDX推進に取り組みます。



下記の人材・IT環境整備によりDX戦略を推進します。

人材育成、確保の施策



IT人材の育成

- IT関連資格の取得
- ICT施工関連技術の習得
- 社内人材のリスキリング

IT人材の採用

- IT人材の積極採用
- 中途採用の実施

外部企業との連携

- 外部企業との連携・協働によるノウハウの獲得
- 外部企業との定期的な情報交換の実施

IT環境整備の施策



クラウド活用

- 社内システムのクラウド移行に向けた環境整備
- データ保管サーバのクラウド移行
- 紙帳票の更なるデジタル化

モバイル活用

- 各現場へのタブレット端末導入

セキュリティ対策

- 端末のセキュリティ強化
- ネットワーク監視の強化
- 顧客データのプライバシー保護とセキュリティ確保

次の指標によりDX計画の推進状況を管理

建設現場のDX



- ICT施工件数
30%（2026年度）
※工事件数に対する割合
- 3次元データ活用による施工件数
30%（2026年度）
※工事件数に対する割合

働き方のDX



- リモート打合せ件数
2件以上/月
- 週休2日制の実施

人材育成



- ICT施工関連技術者 5名
- IT関連資格取得 3名
- デジタル活用勉強会 6回/年